
僕のテガミ

漱咲

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

僕のテガミ

【Nコード】

N9931A

【作者名】

漱咲

【あらすじ】

おまえに最初で最後の手紙を送ります。

第1通：おまえ（前書き）

荒らしはなしで！読んで感想くれたらうれしいです！

第1通：おまえ

いつもの朝。

。おれはまたおまえの声で起こされた。おまえは、おれん家の外から早くしないと遅刻すると声をかけている。。正直うざい。毎日毎日。おれはゆっくり寝ていたいのに。学校も最近だるい。。

おまえは登校中も何かと話を振ってくる。おれは、眠さから半端な返事を返す。。頭を叩かれた。昔から変わらない、おまえのその男勝りな性格。。学校にはちょうどチャイムと共に着席できた。まあいつもうざいおまえのおかげってやつか。今日もまた一日が始まった。

くつづく

第2通：お前

おまえは、おれと違って学校では人気があった。
可愛いのは認める。

。後輩の間ではファンクラブが出来ていたほどだ。男子だけじゃなく、女子にも好かれていた。加えて学級委員長。それに比べ：おれときたら、頭も顔も中の中：頭は下か。特別モテるわけではない。だから、たまにおまえと話していると、男子からの批判と嫉妬がすごい。そんなおまえは、おれの大変さを全く知らないで話しかけてくる。うざい。おまえとおれはただの幼なじみ。そんなおれたちも高校三年。高校生活最後の年になり、最後の文化祭が近づいていた。おまえは、学級委員長だけあって毎日が慌ただしくなっていたようだ。朝、おれを外から怒鳴ってくることもなくなった。

：おれは正直せいせいしていた。

。ゆっくり寝れる日々を過ごせるのだから……でも学校には、遅刻しながらも毎日登校した。おまえの頑張り様は、鈍感なおれでもよくわかった。なぜそんなに頑張るのか：最後の文化祭だから？学級委員長だから？どちらにしてもおれにとってはどうでもいいことだった。まさか、これがあんなことに繋がってるなんてわからなかったから：次第に文化祭が近付いていくうちに、クラス全体が活気づいてきた。ますますおれは浮いた：文化祭なんてどうでもいい。だるいだけ。文化祭を控え一週間前、放課後クラス全員で出し物の話し合いをすることになった。当然おれは帰ろうと決めていた。

放課後：おれはクラスで一人だけカバンを持って下駄箱に向かった。帰るのは当然おれだけ。靴を下駄箱から取り出し、ふと前を見るとおまえが笑みを浮かべて立っていた。おれの行動を読んでいたかのように：この笑みを久々に見て……新鮮だった。すると、お

まへは次の瞬間、おれに帰ろうと言ってきた。おまえから言われたのは久々だった。正直一人で帰りたいかったが、久々もあり一緒に帰ることにした。。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9931a/>

僕のテガミ

2010年10月17日22時45分発行